

情報公開文書

名称	アナフィラキシーショックに対するH2ブロッカーの投与
診療科等	全診療科
分類	適応外使用
対象者	当院で治療を受ける患者で、アナフィラキシー症状を呈した患者
承認日	2023年8月28日
対象期間	承認後から永続的に使用
概要	<p>【目的・意義】</p> <p>アナフィラキシーの治療においては、痒みや蕁麻疹といったアレルギー反応を抑制するために抗アレルギー薬（H1ブロッカー）を投与します。その際に、胃酸の分泌を抑える薬であるファモチジン（H2ブロッカー）と一緒に使用することが推奨されています。これは抗アレルギー薬と胃薬であるファモチジンが、同じヒスタミン受容体であるH1受容体とH2受容体にそれぞれ働くことから、同時に投与することでアレルギー反応の抑制効果が高まるとされているためです。</p> <p>しかしながら、アナフィラキシーの患者に対してH2ブロッカーを投与することは保険診療では適応外の使用となります。アナフィラキシーに対するH2ブロッカーの投与は多くの教科書・論文等に掲載され、多くの医療現場で行われています。上記理由から、医師が必要と判断したアナフィラキシーショックの患者に対して、その使用を認めています。</p> <p>【想定される不利益と対策】</p> <p>一般的なH2ブロッカー投与時の副作用である、肝機能障害や汎血球減少などが起こる可能性があります。しかし、抗アレルギー薬と同時に投与することで、特別な副作用が起きたり出やすくなったりすることは少ないと考えられます。頻回な状態観察を実施することで副作用の予防と早期発見に努めます。また、アナフィラキシー症状が改善され次第、この治療は終了します。</p>